

何をしたいかわからない

本人に向いている
趣味や習いごとで、
職場以外の人とのつながりが
持てれば良いと思います

本当の大学が
関わってくれるような
学びの場があれば
もっと良いと思う

卒業後も
継続して学べる場が
近くで増えるよう
協力していきたい

役に立つことを
少人数で学べる
学習・運動・料理などの教室。
生活的にも身体的にも
少しでも長く
続けられる場がほしい

学びたい 思い。

ともに学べる
共生社会をめざして

作業所以外で
障害者のサークル的な
活動があれば

生涯かよえる
趣味の場所が近くにあれば、
また支援して下さる方がいればと、
切に願います

自宅から近くに
学びの場の選択肢が
たくさんほしい

健常者と
障害のある人が
共に活動できる
サークルがあれば
いいなと思います

どこで
情報を得たらいいのかわからない

重度の知的障害のある人は、
卒業後の趣味や学びの場が少なく
親の付き添いの負担も
大きいです

子ども向けの
サービスに比べて
大人向けが少ない

両親以外で
気軽に相談できる場所や
同年代が集まれる
場所が欲しい

1 知ってほしい、障害のある方の学びの場に関する意識

障害のある人が「現在どのような生活を送っているか」「活動に至るまでの困難なこと」「必要とするサービスは何か」また、「充実した活動をするためにはどのような支援が必要か」等を調査し、まとめました。効果的な支援につなげる資料としてご活用ください。

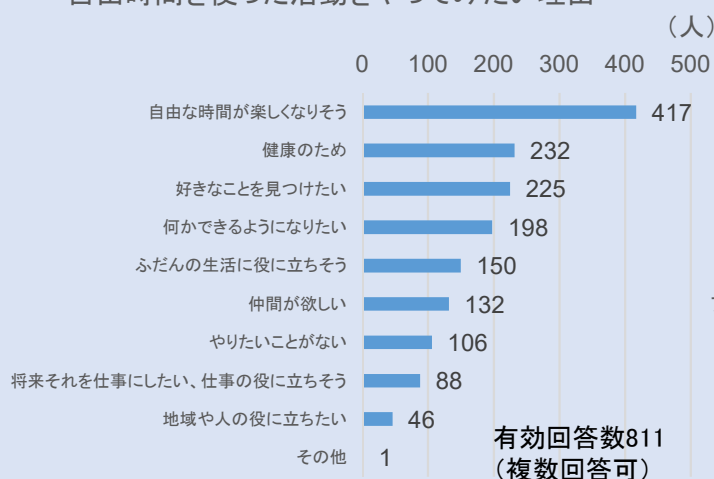
(詳細版は、兵庫県教育委員会事務局社会教育課HPに掲載)

対象 学校卒業後の知的障害のある人

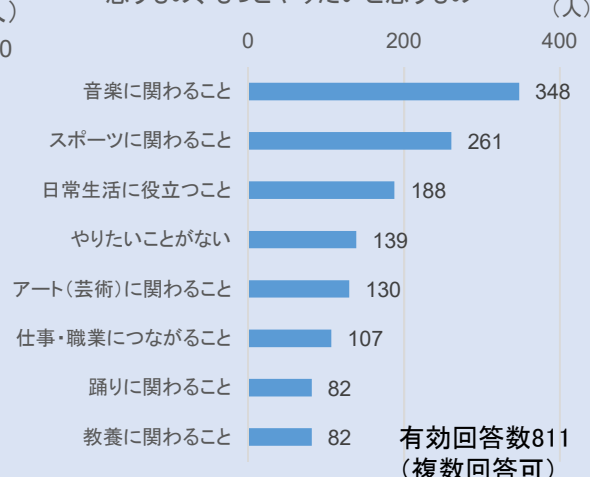
回答数 811人

障害のある人は、自由時間の過ごし方についてどのように考えているのでしょうか。

自由時間を使った活動をやってみたい理由



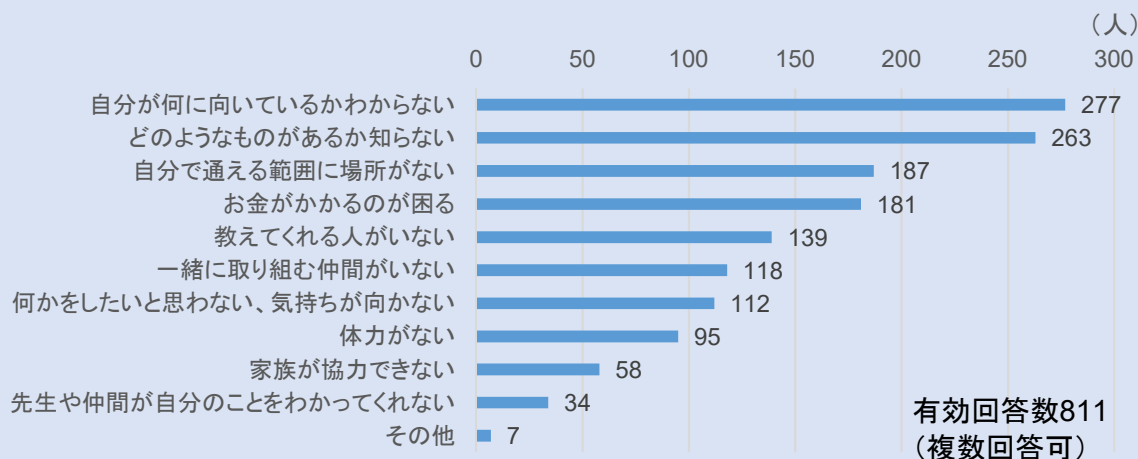
自由時間を使った活動のうち、やってみたいと思うもの、もっとやりたいと思うもの



自由時間を好きなことをして楽しく過ごしたいと考えている人が多いことがわかります。また、音楽やスポーツに関わることに取り組みたいと考えている人が多い一方、やりたいことがないという人が17%います。

やってみたいと思う人が、活動を始めるまでに困難だと考えていることは何でしょうか。

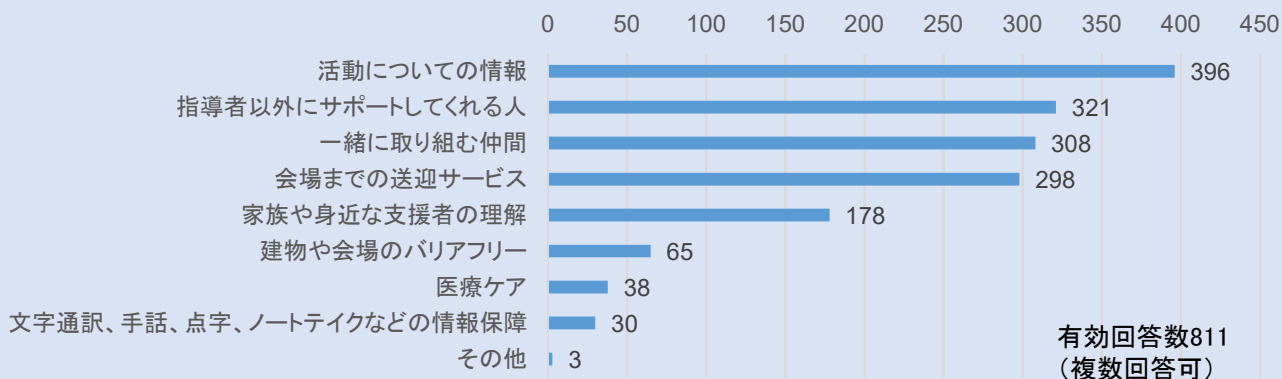
自由時間を使った活動に至るまでの困難



次に、活動するために必要と考えていることについて見てみましょう。

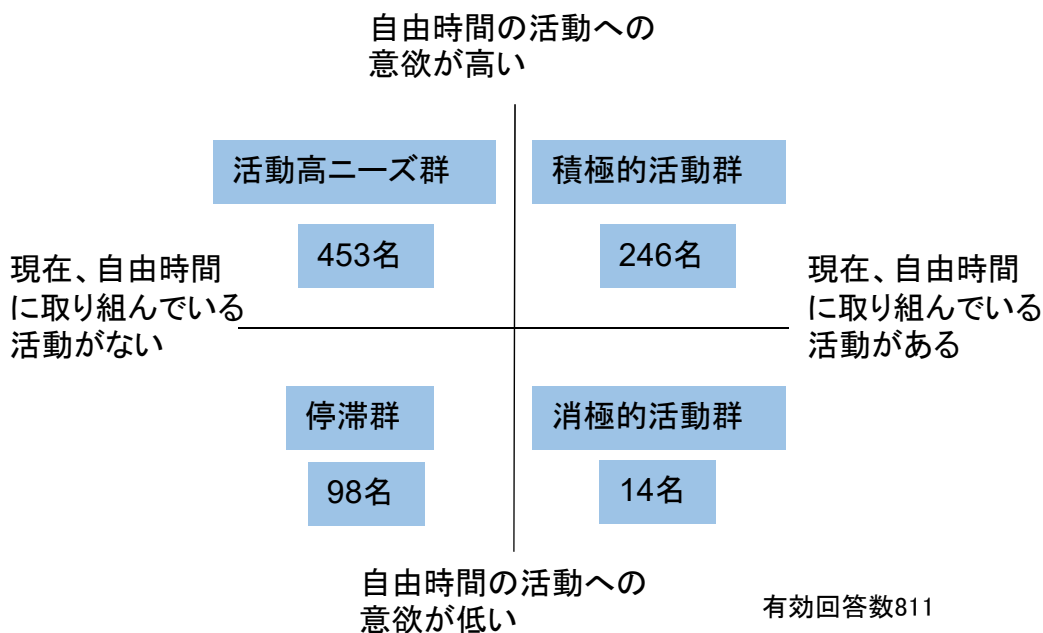
自由時間を使った活動をするために必要なサービス

(人)



情報、支援者や仲間が必要であると考えている人が多いようです。

活動意欲の高低と現在取り組んでいる活動の有無をクロスして集計しました。



活動する意欲はあるが、取り組んでいない人が圧倒的に多いことがわかります。アンケート結果からは、「どのような活動があるかわからない」といったことが活動を始める障壁になっていることや一緒に取り組む仲間、サポートする人の存在が必要とされていることがわかります。

学びは、人生を豊かにするものです。

障害の有無にかかわらず、だれもが学べる社会のため、障害のある方へ活動場所や内容などの情報を届けることが大切です。

2 便利！学びの場の検索アプリ

「家の近くにどのような学びの場があるかわからない」、「ネットの情報だけではわかりにくい」、そんな声に応えるため、県内にある学びの場を自分にあった条件で簡単に検索できるアプリを作成しました。動画や字幕を使って、活動紹介している団体もあります。



①検索ワードを入力

- 市町名
- 地域名
- 活動名
- 団体名
- 関係キーワード等

②「団体名」をタップ

“イーストパブリックモンキーズ”



- ・団体名
- ・活動内容
- ・障害種別
- ・参加形態
- ・特徴
- ・連絡先
- ・活動紹介動画 等



アクセスはこちらから

登録団体数 78団体 (R4.1 現在)

すぐに参加したくなるような活動がたくさん。ぜひアクセスして自分に合った活動を見てください。

団体関係者の皆さま、登録をお待ちしています。(p8に記載の[問い合わせ先]まで連絡ください。)

3 学びを支援する工夫

学びを支える様々な支援が行われています。
工夫された取り組みを紹介します。

- 身体障害者社会学級（兵庫県教育委員会）
教養や実践的な知識・技能等を習得するとともに交流の機会を通して、相互理解を深め、生きる喜びを創造する場を提供する事を目的に実施。
青い鳥学級（視覚障害者：8学級）
くすの木学級（聴覚・言語障害者：7学級）
たけのこ学級（筋ジストロフィー症者：1学級）



①読み上げ機能のアプリ活用

②話題のスポーツにチャレンジ

③病室への出前講座

④新型コロナウイルス感染症関係講座

⑤障害者の活躍（モデル）に学ぶ

⑥支援者との歩行訓練講座

- ①スマートフォン講座
読み上げ機能のあるアプリを使用し、機能について学んだ後に体験を行った。
- ②ボッチャ体験講座
パラリンピックで話題を集めたボッチャを体験した。
- ③プラネタリウム
病室において、星座を観賞し天体について学んだ。
- ④感染症対策講座
消毒液の正しい使い方や除菌、殺菌、抗菌すること、免疫力の高め方を学んだ。
- ⑤落語・講談講座
視覚障害のある方の落語・講談を聞き、活躍ぶりに刺激を受けた。
- ⑥歩行訓練講座
狭いところや階段、椅子への誘導など歩行補助の方法を学んだ。

□ 学ぶ楽しみ発見プログラム（KUPI）

神戸大学の資源を効果的に活用し、言語によるコミュニケーションが可能な知的障害のある方が、学ぶことの楽しさを感じ、自己理解や他者理解、人格を育てるために実施。

神戸大学「学ぶ楽しみ発見プログラム（通称：KUPI）」は、神戸大学の一般の学生と知的障害学生とが共に学ぶ場づくりの実践です。

火・水・金の17時から20時まで、知的障害のある青年たち10名余りが、大学の授業に取り組みます。

期間は後期（10月～2月）です。2019年度から「聴講生制度」を使って始まったこの実践は、2020年度から「特別の課程」として、大学教育に位置づけることができました。

火曜日は、一般学生向けの授業との合同授業です。2021年度は「自己表現を作品にする」取り組みを実施しました。水曜日は、神戸大学の教員がKUPI学生のために哲学、心理学、宇宙物理学、教育学、音楽療法学、社会保障論などの専門的な授業を行っています。金曜日は話し合いを中心とした主体的な学びをめざしています。その他にも、一般学生と一緒に活動する課外活動も実施しました。

KUPIの学生たちは、みんな真剣に楽しく学んでいます。



たくさんある取り組みから、もう少し事例を紹介します。

□ 兵庫県版コミュニティ・スクールの取り組みから 特別支援学校での学び

県立播磨特別支援学校

県立特別支援学校では、学びたいという気持ちを大切に地域や団体の皆さんと一緒にサポートしています。

地域×福祉×学校=新しい連携と協働のカタチ

県立播磨特別支援学校では、生徒の喫茶技術や運営をコーヒー等の販売を通じて学ぶCaféはりまをオープン。生徒の学びたい気持ちを具体に実現させます。

場所はマックスバリュ龍野店が、商品は特定非営利活動法人いねいぶるが提供。神戸芸術工科大学の学生はユニバーサルな表示を工夫するなど産学連携して生徒の学びを支援しています。



たくさんの方に購入いただいています

学んだことを生かして良かった。お客さんに感謝されてうれしかった。



経験を積んで、接客も滑らか

□ 文部科学大臣表彰 受賞団体の取組から

朝来市和田山生涯学習センター『知的障害者オープンカレッジ』

活動概要

知的障害のある人の学ぶ場、生涯学習を通して「教育を受ける権利」と「個人の発達」を保障した「人権の保障」を基本に、地域での学ぶ場として『カレッジ』と銘打って講座を開設しています。また、地域の人と一緒に学ぶことができるよう、講師やボランティアを地域の人にお願ひし、日常生活に必要なノウハウを楽しく学んでいます。



生活に直結した内容で、自立を支援

4 思いは同じ！つながりづくりの取り組み

一人では十分な支援を行うことは難しい場合もあります。目的を同じくする仲間と取り組みや悩みなどを共有することで、新しいアイデアがひらめいたり、明日の取り組みへの活力が生まれたりするのではないのでしょうか。

□ 近畿Bブロック「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」

学びの場づくりに関する好事例の共有、障害者の生涯学習活動に関する研究協議等を通じて、障害者理解の促進や支援者同士の学び合いによる学びの場の担い手の育成等、障害者の学びの場の充実をめざして開催しました。

日時 令和3年11月5日(金)
13:30~17:00
会場 県内10会場をオンラインで
結んで実施
(メイン会場:しあわせの村)
参加者 161名



会場の様子 (しあわせの村)



実践発表
(東はりまチャンゴサークル)

- 内容
- 当事者と支援者による実践発表とそれぞれの視点を交えた協議
 - オンラインの併用により、遠隔地からでも参加可能な体制で実施



分科会



ネットで結ばれた各会場

(分科会やアンケートから)

問 障害者の生涯学習の推進、学びの場づくりなどについて、今後、必要なことは何だと思えますか。

- ・サポート、協力できる体制
- ・ボランティアの育成
- ・交流の場
- ・学校教育との接続
- ・支援者の育成
- ・周りの人の理解
- ・当事者が必要と思う支援に着目すること
- ・障害者の生涯学習推進にかかる広報

□ 研修会の実施

支援経験が少ない方を主な対象として、障害者の生涯学習に関わる基礎的な事項についての講義と意見交流を行いました。

同じような立場の人と知り合って、意見交換できたことが今後の励みになった。

学術的な裏付けのもと、支援を充実させていきたいと思う。

「私たち一人一人には、どんな関わりができるだろう？」
テーマを共有して、一緒に考える有意義な時間となりました。

5 誰もが一度は疑問に思う6つのこと

「こんな時どうしたらいいの？」 「これってどういう意味だっけ？」
支援経験の浅い方のため、ベテランさんから押さえておくべきポイントをアドバイス
いただき、Q&Aとしてまとめました。

Q 合理的配慮の提供って？

A 障害のある人から、社会の中にある
バリアを取り除くために何らかの対
応を必要としていると意思が伝えら
れたときに、負担が重すぎない範囲
で対応することです。

Q 生涯学習って？

A 私たちが生涯に行うあらゆる学習のことで、
学校教育、家庭教育、社会教育、文化活動、
スポーツ活動、レクリエーション活動、ボラン
ティア活動、趣味など様々な場や機会にお
いて行う学習のことです。
豊かな人生を送ることができるよう、その生
涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場
所において学習する機会があります。

Q バリアフリーとは？

A 障害のある人が社会生活をしていく上で障
壁（バリア）となるものを除去するという意
味です。もともと住宅建築用語で登場し、段
差等の物理的障壁の除去をいうことが多く
ですが、より広く障害者の社会参加を困難
にしている社会的、制度的、心理的なすべ
の障壁の除去という意味でも用いられてい
ます。

Q ユニバーサルデザインとは？

A 文化・言語・国籍や年齢・性別などの
違い、障害の有無や能力差などにか
かわらず、できるだけ多くの人にわか
りやすく、利用できることをめざした建
築（設備）・製品・情報などの設計
（デザイン）のことです。

Q 障害のある人の支援に関わ
りたいのですが。

A そんなときこそ、P.4「便利!学びの場
の検索アプリ」を活用してください。ま
た、地域の障害者団体や社会福祉協
議会、障害者福祉事業所など訪ねて
みてはいかががでしょうか。

Q 障害のある方とのコミュニケーション
で気をつけることは？

A 障害は人によってさまざまです。本人やその
人をよく知っている人と対話しながら支援の
しかたを試行錯誤してください。ジェスチャー
や絵や文字、手話、点字で伝えたり、落ち着く
ことのできる空間をつくったりなど、役立つノ
ウハウがあるので、学びながら試してみましょ
う。

文部科学省

学校卒業後の障害者の学びを支援するための地域連携コンソーシアム構築事業

〔問い合わせ先〕

兵庫県教育委員会事務局

社会教育課社会教育班

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1

Tel 078-362-3782 Fax 078-362-3927

R4.3月発行

03教P2-110A3